

第4回振興会議における委員からの意見概要

1 (仮称) 小樽市中小企業支援センターについて

(センターが持つ機能について)

- ・センターについては賛成で、起業したばかりの方のサポート機能としてすごく良いと思うが、センターが能動的に企業情報を集めて、これをもとにマッチングするビジネスマッチング機能を強化していくと良い。
- ・センター長がすべての分野について知識を持ってアドバイスすることはなかなか難しいと思うが、各支援機関等を一つにまとめることがこのセンターだと思っているので、それぞれの団体の窓口になるような形でもよいのではないか。
- ・こういうようにしたいのでそう思う人を応援しますくらいのことをやったほうがより成果が上がるのではないか。小樽は硝子も寿司もオルゴールも、最近は洋菓子もみんな企業が努力してブランド化してきた街であり、まだブランド化の可能性のあるものが残っていると思うので、そういったサポートを行うという方向もよいのではないか。
- ・受動的に相談に来られるだけではなく、能動的、ダイナミックにしたほうがよい。企業が具体的に何をしたいのかわからない相談は実は多く、企業の方と一緒に悩みを解決するよりも、そもそも前段でその悩み自体が何なのかということをおある程度整理して、こう考えたらこういうことが起きるのではとアドバイスするという役割も期待してよいと思う。
- ・それぞれの団体がノウハウを持っており、センター長がそのノウハウを全部覚えるというのは多分無理だと思うので、窓口となり、それぞれに振分けをし、基本的なことだけはそこでアドバイスをする方向になるかと思う。
- ・基本的にセンターという新しいもの、そのものを作ることは反対。色々ある検討事項に関しては市を前に進めるために必要な事だとは思いますが、財政状況や人口減少を考えると、商工会議所や市などが上手く連携したり、センターを作るにしても必要最低限の経費でやるなど、今ある機能を充実させたほうが建設的に物事が進むと思うが、中途半端なことをやるのならばやめたほうがよい。
- ・前から上手くいってなくて、センターがあると上手くいくものだろうかとは思いますが、あえて言えば、様々な課題に対して、絞った形にしないと立ち上がりも遅くなるし、専門家も集まらない。人口も事業所も減少している中で、中小企業が雇用の担い手ということであれば、事業承継と、2番目には創業支援、それから域内循環に絞ったくらいのほうが、成果について色々検討できるのではないか。

(産学官金等の連携による支援体制について)

- ・センターの設置については良いと思う。商工会議所等の関係機関との連携をどうするか。このスキーム自体は良いと思うので、やるとなったときに、資料3の2枚目の「(仮称) 小樽市中小企業支援センター設置に係る検討事項」に書かれたことを詰めるのであれば良いと思う。
- ・大変良いスキームであり、支援センター設立は賛成。また、商工会議所などの各機関で同様な事業もあるので、当然それは整理していく必要がある。
- ・インキュベーションやビジネス交流施設は、箱物だけ作ればそういう機能を期待できるのかどうか、これは北見のほうがどのように機能するのか上手く観察すると良いと思う。商工会議所を含

めて、色々な機能がばらばらとあるものを、このセンターに1つにまとめるんだというようにとらえられているようにも聞こえるが、本当にそういう組織にするのかどうか。

- ・今までやってきて、何ができなかったのかということを外の目線を取り入れながら、小樽をどう変えていかななくてはいけないのかというところが必要。そこをこういったセンターに集約させるということもやはり大事なことだと思うので、せつかくこういった議論が出たので、委員の意見を網羅する形で大事に抽出して、立ち上げただけを成果とするのではなく、本当にこれを使って小樽は変わるという印象にして欲しい。

(センターの設置費用等について)

- ・センター案はよくまとまっている。センター運営に関する費用をどのように捻出していくか、どのような方がどう活用して、どういう変化を生んでいくのかというところまで、今後議論が進んでいくのではないか。
- ・これからの課題としてはやはり資料3の内容(センター案)をより具現化していくことだと思う。インキュベーション施設をやるとなると、お金の関係、市との兼ね合いが出てくる。
- ・センター長の公募でどういった人材が集まるのか。また、センターの規模や初年度目標はどう考えているのか。その中でその人は何をやっていくのか。果たして1人でOKか、どう運営するかといった点もしっかりと考える必要がある。
- ・センターに必要なものは箱ではなくて基本的に人材であり、箱に関しては今、不要・不急で動いていない施設を使うべき。少なくとも3年間が勝負であり、その中で実績がないとやめたほうがよい。この案自体は非常に優れているが、箱ではなく、人材を活用するためにお金を使って欲しい。
- ・センター長は創業のビジネスアイデア、融資、店舗探し、流通、SNSなどによるマーケティング、売上が伸びない場合への対応といったことをずっとサポートするので、片手間ではできず、1200万とは言わずとも、どれくらいの報酬でどのレベルの方が来られるのか、というところがキーポイント。
- ・インキュベーション施設の最大の目的は事業の拡大や成功のための支援を行うことで、一番重要なのは経営に関する支援を行う専門家であり、人材確保。インキュベーションマネージャーと企業者との間で、目的や目標が不一致だと所期の成果を挙げられないと聞くため、専門家、スタッフの専任や選定が非常に重要。
- ・小樽の再生ということを考えると、産学官金のメンバーが総力をあげて、新しい付加価値を生み出すところまで視野に入れつつ、何年かかけて構想を練り、実行部隊を作って、小樽市の基本的な構想とすり合せながら進めていくようなものをセンターの中に組み入れ、未来を志向するような中小企業支援センターにしていくことが望ましい。
- ・色々な課題がある。センター長の問題、コーディネーターの問題としては、予算面や、センター長の公募を適切にできるのかが問題。きちんとやるのであれば、真剣にロードマップを作り、それに対しての方向性をみんなで決めて進んでいく必要がある。
- ・資料3(センター案)の中で一番キーになるのはセンター長の能力だろうが、コーディネーターという能動的な機能を期待すると絞ったのは良いと思う。色々なことをやってもらうという期待が大きすぎると失敗するだろう。意見にあったように、センター長に期待するものをかなり絞ったものにしないと上手くいかないと思う。センター長のタイプとしてビジネスセンスがあり、コミュニケーション能力が高くというように具体的に書かれている部分も非常に良い。問題はどのように人選し、御眼鏡に合わなかった場合にはどうするのかということで、大きな課題だ。

- ・センターの設置場所は郊外は論外である。

(センターの設置に向けた機運醸成について)

- ・実際にフクビズの方からお話を聞いて、小樽と同じ機能を持たせられたら本当に素晴らしいと実感している。「検討事項」にセンター設立に向けた機運醸成としてほかの施設のセンター長による講演会の開催とあるが、早い段階で、例えば今日この方たちがいれば、皆さんに納得していただけるのではないかと思う。また、小樽市全体の機運を高めるよりも先に、ここにいる委員の皆さんの機運が高める必要がある。

(その他)

- ・センターが上手くいって活性化されるということについては労働者の待遇等も向上していくと思うので、この通り進めて進むのかどうかというのはやってみないと分からないところもあると思うがぜひよろしくお願ひしたい。
- ・ビジネスマッチング等々の販路拡大支援は金融機関でも難しいところであり、センターを作ることには基本的に賛成だが、機能させるには相当魂を入れていく必要があることと、例えば移住ツアーが小樽への移住を決めることがあり、そういった地道な活動も非常に効果的である。
- ・小樽市内における中小企業の実態調査を行い、市内経済の実情を正確に把握し、センターの事業に合わせて強靱な政策を提言できるとよい。

2 若者の地元定着に向けた取組について

- ・最近、有効求人倍率は上向きではあるが、結構ミスマッチも多くなっており、フリーダイヤルで労働に対する相談を受けているが、経営者も高校生もなかなか基本的な労働法制について理解をしていないという状況があるので、そのくらいの知識は多少身につけていったほうが、ミスマッチも若干はクリアされるのかなというように考える。
- ・出産適齢年齢の女性がいなくなると地方の人口が減るとの指摘があるが、そうすると、女性が地元で定着する方法を作るところに特化する必要がある。
- ・女性高卒者で事務職を希望する全員を市内で受け入れられるかという疑問であり、職種によるのかもしれないが、受け入れ態勢も考えていく必要がある。